



博報堂DYメディアパートナーズ2012年度入社式社長挨拶

株式会社博報堂DYメディアパートナーズは4月2日(月)午前10時、東京都港区赤坂の本社に新卒採用者20名を迎え、大森壽郎社長以下、役員および部門長が出席し、2012年度入社式を行いました。

新入社員がひとり一人紹介された後、大森社長が歓迎と激励の言葉を贈り、新入社員代表が決意の言葉を述べ、式を終了しました。

大森社長挨拶の趣旨は以下の通りです。

皆さん、入社おめでとうございます。

今日ここに20名の新しい仲間を迎えることができました。私をはじめ、博報堂DYメディアパートナーズの全員、さらには博報堂DYグループの全員で皆さんを歓迎します。やる気に満ち溢れた皆さんの顔を見ていると、共に歩む力がまた増えたことを実感し、心から頼もしく思います。

2011年は東日本大震災によって社会の価値観が大きく変化した年でした。それまでも継続していたデジタルテクノロジーの進展もあいまって、コミュニケーション環境も加速度を増し劇的に変化しています。この二つの変化を背景に、私たち博報堂DYメディアパートナーズを取り巻く環境は当然大きな影響を受けています。

生活者同士がリアルタイムに受発信する情報が増幅し、得意先企業は生活者に共感を広げるようなマーケティングコミュニケーション手法を模索しています。媒体社やコンテンツホルダーは自分たちの資産を見直し、それを活用した新しい市場を開拓し始めています。

私たちは、「メディア効果をデザインする」ことを企業理念とし、総合メディア事業会社として生活者、得意先企業、媒体社・コンテンツホルダーの全てに深く関わるポジションにあります。マーケティングや社会変化の真ん中に立っていると言っても過言ではないでしょう。私たちには、周りの変化に対応するだけではなく、変化の本質を捉え、潮流を読み、先んじて変化に備えていくことによって、新しい価値を創造し、社会に提供することが求められています。

つまり、私たち博報堂DYメディアパートナーズは、明るく前に向かって進んでいこう

とする社会全体の力を引き出し、支援するという役割を担っているということに他なりません。

2012年の年頭に、私は博報堂DYメディアパートナーズで働く皆さんの中堅全員に、「意思を持って動く。」という話をしました。「いし」とは、「志」ではなく、あえて「思う」を使った「いし」としました。やり遂げようとする「志」も大切ですが、もっと根本的な、そうしたいという心の底からの「思い」や考えが大切だからです。現状に満足せず、絶えず考え、動き、人と話し、また考え、動くことが、社内外を問わず周囲を巻き込み、更に大きな動きを生み出します。意思を持って動くことこそが、自分の専門領域での責任を全うし、そして、そこから飛び出していく契機となります。その行動は、社会に対して元気をもたらす源泉になるのです。

本日、博報堂DYメディアパートナーズは、ここにいる20名を含めた社員全員の力を合わせて、新たな一歩を踏み出します。社会に元気を届けるという役割を担うこの会社の仲間として、皆さんのが活躍してもらうために、皆さんにも「意思を持って動く」ことを期待します。「思い」や「考え」をお互いにぶつけ合いながら仕事を進めていくために、皆さんに具体的に実行してもらいたいことが3つ、そして、その3つの大本になることを1つ、お伝えします。

先ずは、「越境する」ことです。

仕事が少し分かってくると、やがて自分の領域を意識するようになります。「责任感」や「専門性の深耕」という意味においては、いいことでしょう。しかし、当社がより前に進むためには、「境界」を作らず、縦横斜めに考え方の異なる人間がつながって補いあう必要があります。

新人の強みは、どれだけ自分を助けてくれる人をつかんでおくかということです。多様な人と接することで、どんどん境界を崩し、越境してください。

次に、「先の先のことを考える」ということです。

媒体社の先には読者や視聴者として、また、得意先企業の先には消費者やブランドファンとして、生活者がいます。媒体社や得意先企業の課題は、生活者のことまで考えなければ解決できません。課題の本質を見極め、相手が思っている以上の価値を提供できるよう、

密度の濃いコミュニケーションを意識してください。

最後が、「企てる」ということです。

「企てる」ことは、自分の決めたことを実現するために、必死になって考え、手を尽くし、心を尽くして行動する「思い」です。「思い」がなければ、人を動かすことは出来ないし、人に力を引き出してもうことはできません。「企てる」ことで、行動に意思が伴い、意思の伴った行動は、周りを動かす力を持ちます。その力を身につけてください。

この3つの行動の起点となるのは、「とことん話すこと」です。多くの人と多くの時間を費やしてとことん話してください。気持ちを伝え、感情を汲み取るために、メールや電話ではなく、できれば1対1で、ひざを交えてとことん話をして欲しい。その中で、多くの人の「意思」に触れて自分の力を引き出してもらい、自分の「意思」をぶつけながら、賛同したり意見したりしてくれる仲間を作ることこそが、皆さんのが実行しなければならない、そして、唯一実行できることです。

「とことん話す」には、大きなエネルギーが必要です。なぜならば、自ら十分に考え抜いて、行動し続けなければならないからです。皆さんは、くじけず、あきらめず、嬉々として「とことん話して」くれると確信しています。

新人だからといって臆することなく、私たちとともに前に向かって大きな一歩を踏み出しましょう。私をはじめとする先輩たちは、皆さんの全てを受け止めます。遠慮なく、ぶつかってきてください。とことん話しましょう。そして、一丸となって、社会が元気になるために、進んでいきましょう。

そして、皆さんのが社会に貢献しているのだという自負を持って仕事を続けていくことで、人間的にも成長していくことを期待します。

以上

2012年4月2日
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
広報室広報グループ 加藤・山崎
(TEL 03-6441-9347)